

学年	高校 3 年	教科	地歴	科目	地理演習	単位数	7
教科書名		新詳地理（帝国書院）		副教材名	新高等学校地図（東京書籍） 新詳地理資料 COMPLETE（帝国書院） 地理用語集（山川出版） New com-pass note(とうほう)		
コース・クラス		中高一貫文系					

I. 目標

1. 大学入学共通テスト、他私立大学の入試問題に対応できる解答力を強化する。
2. 二年次に学習した地理探究における知識を前提として様々な地理的事象や問題を考察し、得点力を確実にする。
3. 系統地理と地誌の多角的な融合をすることで、各事象の地理的視点をより強化する。
4. 演習問題を有効かつ効果的に使い、模試や入試で出題される問題に柔軟に対応できる応用力を強化する。
5. 大学入学共通テストでの確実な得点力と難関私立大学の入試問題に的確に対応できる実力を身につける。

II. 授業のねらい

1. 探究学習の応用と地理的事象の考察及びその背景（文化・歴史等）も含めて解決力を涵養する。
2. 地理的視点から政治、経済、国際関係、文化生活、地球科学等の幅広い素養を身につける。
3. 無駄な暗記は極力排除し、地理的視点からの理論的考察や思考力を養う。

III. 授業の進め方

1. 過去問（入試・模試等）を授業の理解度に応じて提示し、入試の出題傾向における必要な事項を確認する。
2. 地図から得られる情報を大切にし、地図を読むように毎時積極的に使用する。
3. 資料集を優先し、複数の情報から設問の意図を汲み、確実に解答できるように解説を行う。
4. 大学入学共通テスト、難関私立大学入試問題に早く・確実に解答できるよう解説する。
5. 受験問題の出題傾向を理解しその対策を目的に行う。
6. 進度は地理探究に準ずるが、それを踏まえた大所高所からの実践演習を行う。

IV. 学習上の留意点

1. 復習のみを課し、学習した内容（解いた問題）はその日のうちに確認及び定着すること。
2. New com-pass note を使用するが、教科書・地図帳・用語集・授業プリントの教材準備は確実にすること。
3. 地理を選択した意志を尊重し、より高度な内容にも積極的に関心を持って取り組むこと。
4. 課題は原則当日解決。わからないものはその日のうちに質問・解決に努力すること。

V. 定期試験

- | | |
|-----------|--|
| 1学期 中間試験 | : 授業範囲を前提に大学入学共通テスト、難関私立大学入試問題と同程度以上の出題。 |
| 1学期 期末試験 | : 授業範囲を前提に大学入学共通テスト、難関私立大学入試問題と同程度以上の出題。 |
| 2学期 中間試験 | : 実施せず |
| 2学期 学年末試験 | : これまで学習した地理に関する総合問題を大学入試共通テスト同等レベルで出題。 |

VI. 評価の方法

各定期試験の得点、学期毎の小テスト、各種課題の提出状況や出席した授業参加の状況等を総合的に判断して評価する。

VII.授業計画

学期	月	単元・学習項目	評価方法	到達目標
一学期	4	第1章 自然環境 1節 地形 2節 気候	小テスト	・自然地理は復習・確認を行う。 ・入試問題を使用し、早く・確実性を優先する。 ・大地形・小地形の特徴を確認する。 ・ケッペンの気候区分とハイサーグラフの確認。 ・我が国の地形や気候特性を確認する。
	5	第2章 資源と産業 1節 農林水産業 2節 食料問題	中間試験	・アジア、アフリカの地誌を演習中心に扱う。 ・農林水産業の確認・気候と農業の確認 ・各農産物の生産・輸出・輸入の確認。 ・入試問題からの分析と傾向対策。 ・入試における鉱工業の確認。 ・鉱工業の貿易統計を確認。 ・一次産品の貿易を統計数値と地図を使い確認。 ・エネルギー問題を多角的に確認
	6	3節 エネルギー・鉱産資源 4節 資源・エネルギー問題		
		5節 工業（製造）	小テスト	・南北アメリカ、ヨーロッパ、オセアニアの地誌を入試問題を用いて扱う。
	7	6節 第3次産業	期末試験	
二学期	9	現代における地理の諸問題	小テスト	・世界の地理的事象を確認する。 - 戦争、テロリズム発生のメカニズムを歴史的な背景から考察する。 - 世界史や政経分野からの地理との関連を確認（入試問題の過去の出題）
	10	第3部 現代世界におけるこれからの日本の国土像 第1節 将来の国土の在り方		・我が国の地理的な課題と文化的な背景を入試過去問から考察する。
	11	第2節 持続可能な日本の国土像		・「世界の中の日本」を入試問題から考察する。
	12	の研究		・地誌の総合問題を扱う。
			期末試験	

※ シラバスの内容（時間や事項）については、理解度やその他の状況により変更することもある。

※ 日本大学基礎学力到達度テスト受験を前提に系統地理の基本事項確認と地誌・演習を優先する。

※ 高3の3学期の授業設定は無いが、随時一般受験の指導体制は維持する。